

＊ ＊ 顕彰記録 ＊ ＊

《幸田町中学校新人体育大会》

<団体>
男子剣道部 優勝
<個人>
男子ソフトテニス部
ペア 優勝
ペア 第2位
男子剣道部 第2位
女子剣道部 優勝

《第15回岡崎幸田中学校新人ソフトテニス選手権大会》

男子ソフトテニス部 第3位
→西三河中学校新人ソフトテニス選手権大会出場

《西三河中学校新人ソフトテニス選手権大会》

男子ソフトテニス部 ベスト8
→愛知県中学校新人ソフトテニス選手権大会出場



《第68回青少年読書感想文コンクール 幸田町審査》

特選
入選

《第72回社会を明るくする運動作文コンテスト》

佳作

《青年の主張愛知県大会》

努力賞

《第16回全日本学生・ジュニア短歌大会》

奨励賞

初めての幸中祭

クラス全員で有志発表 1年

私たちのクラスは、有志発表に全員で参加し、キツネダンスを踊りました。正直なところ、私は1組全員で有志発表に出ると決まったときに、合唱コンクールの練習をしないといけないのに、本当に有志発表の練習もできるのか、とても不安な気持ちになっていました。でも、実際に練習が始まってみると、みんなとても自由に踊っていて、一緒に練習をする時間がとても楽しく感じました。また、誰かが「練習しよう」と声をあげると、少しずつ練習に参加する人数が増えていきました。練習や本番を通して、今までよりもクラスの仲間と仲良くなることができましたと思います。クラス全員で有志発表に出るということはなかなかできないことだと思うので、とてもよかったです。

また、有志発表に参加することを通して、私たちが楽しむことができたのは、たくさんの方が手伝ってくれたり、働いてくれたりする人がいてくれたことにも気付くことができました。

5組の「絆」 1年

最初はこのメンバーでしっかり歌うことができるのか心配に思っていました。しかし、指揮者、伴奏者を中心に、パートリーダーたちが声を掛けながら、少しずつ成長していくことができました。時には、練習に励む気持ちがくずれていたり、全員がばらばらになってしまったりしました。しかし、本番直前には5組全員が気持ちをそろえて、心を一つに練習し、本番は全力で臨むことができました。私のクラスの曲名は「絆」です。私は練習する時いつも、「みんなの心を一つにして5組全員の絆を深めていく」ことを目標にしていました。本番当日、賞はもらえませんでした。私はこの大切な5組みんなの絆を深めることができたと感じています。合唱も今までで一番良い歌を全員のみなさん、お父さん、お母さんなど多くの人に聴いてもらえることができました。文化祭2日目は、1年生最高の思い出になり、5組の絆が深まって、本当によかったと思える日になりました。



合唱コンクールを終えて

今年度の合唱コンクールが終わりました。感染者数は下がってきているものの未だに終息しない新型コロナウイルス感染症の影響で、練習の段階から多くの制限がありました。コロナ禍だから歌えない、練習ができない、ではなく、このような状況下においても隣との距離をとって一列に並んで同じ方向を向いて歌ったり、グラウンドに出て歌ったりするなど様々な工夫をして練習を積み重ねてきました。コロナ禍において、生徒たちは創意工夫することの大切さをこれまで以上に強く感じ、行動につなげることができるようになっていると感じます。



合唱コンクールには、必ず勝ち負けがあります。すべての学級がどんなに頑張っても最優秀賞を受賞できるのは、たったの1学級です。ほとんどの学級が悔し涙を流すのです。しかし、その結果を超越したものが各学級に残るのが合唱コンクールであり、そんな合唱コンクールにしたい、しなければならないと学級担任をしていた時はずっと思っていました。

学級の中には、様々な子がいます。合唱に取り組むにしても、歌が苦手で、歌うことが大嫌いという子だって当然います。そんな歌の苦手な子が、みんなの一つの合唱を創り上げるために、苦手だけど、自分なりに頑張ろうとすること、また周りの子が苦手な子の気持ちに寄り添って、何とか支えていこうとすること、そういったお互いを思いやる気持ちを学ぶことができるのが合唱コンクールであり、だからこそ心が動く瞬間があり、生徒たちはこの行事を通して大きく成長するのだと思います。そして、これは一人一人違うみんなが集まる場所、「学校」でなければできないことです。コロナ禍における新しい生活様式や、グローバル化や人工知能の飛躍的な進歩によって加率的に変化する社会に応じて学校教育も大きな変化を迫られています。しかしながら、今年度も合唱コンクールで、各学級で生徒たちや先生方が見せてくれた「学校だからこそできること」「学校でなければできないこと」をこれからもずっとずっと大切にしていきたいと強く思いました。



幸中祭10/21・22を終えて

10/22(土)幸中祭 合唱コンクールの結果



○ 1年 最優秀賞

1年1組「Let's search for tomorrow」



○ 2年 最優秀賞

2年1組「HEIWAの鐘」



○ 3年 最優秀賞

3年5組「証」

「世界に一つだけの」

生徒会長 2年

今年度の幸中祭では、スローガン「紡～the文化祭～」のもと全校が一体となり、文化祭本来の意味を考え、企画・計画を行ってきました。新型コロナウイルス感染症拡大のため、他学年との交流や接触を行うことが難しく大変でしたが、たくさんの方々の協力のおかげで無事、開催することができました。

一日目の舞台発表では、3年ぶりの吹奏楽部の演奏発表や、13組にもおよぶ有志発表、また全校生徒が協力し、参加した「全校制作」や「全校レク」などを行いました。全校制作では、各学級で作った絵をつなぎ、一つの作品にする「ハンドアート」を完成させました。全校生徒の手形が入った横3m、縦1mにも及ぶ大きな作品は、完成品を見た瞬間、制作にかける想いと、それに応えて下さった生徒のみなさんの姿が頭に浮かび、感動が込み上げてきました。近くで見ると、生徒一人一人の名前が書いてあり、世界に一つだけの素敵な作品となりました。全校レクでは、今年もタブレットを使い「ビンゴ大会」を行いました。団長さんや校長先生の温かいご支援のもと行うことができ、とても盛り上がりました。特に1日目は、有志発表の出演者の生徒・先生方、裏方を手伝ってくれた代議員、会場を盛り上げてくれた生徒のみなさんをはじめ、多くの方々の協力のおかげで、最高の幸中祭となりました。

2日目の合唱コンクールでは、3年ぶりとなる全校開催でした。コロナ禍のため、他学年と聞き合いができなかったため、初めて聴く合唱一つ一つに圧倒され、驚きました。最後に歌った全校合唱「輝くために」では、まさに全校が一体となった瞬間でした。

2日間を通して、何かを企画・計画することの大変さを感じるとともに、楽しさや達成感を身に染みて感じました。今後も幸田中学校がより良くなるよう、みなさんの想いに沿って活動していきたいと思いました。

最高の仲間と残した証 3年

ついに、この日がやってきた。合唱コンクール、僕たちにとって初めての全校開催。他の学年の歌声を聴ける日がくるとは思いませんでした。最後の合唱練習の時、友達に「緊張してる？」と聞かれた時「緊張していない」と答えましたが、心の中では少し緊張していました。けれど、この最高の仲間、3-5、3-6がいるから大丈夫だと思って自分を落ち着かせていました。舞台裏に回ったときに、全員が書いた手紙を読んで、少し感動し、またやるぞ、と気持ちが動きました。そして順番が回ってきたとき、仲間と「やるぞ！」と小さな声で言って、拳を合わせました。舞台上に立った時、人数が多いことにはビックリせず、少しゾーンに入っている感じになりました。歌い終わって、今までで一番良い合唱になったなど、思いました。そして、成績発表の時、3-5と言われた瞬間、思わず「よっしゃー！」と叫んでしまいました。成績発表が終わった時、手を見たら赤くはれていました。本当に、うれしくて、うれしくて、たまりませんでした。この最高の仲間と「証」を歌えたことは、かけがえない宝になりました。そして、感謝の気持ちもあります。全員に感謝したいです。瑚波さん、合唱でまとめてくれてありがとう。勸太さん、最後まで弾いてくれてありがとう。みんな、みんなのおかげで思い出の1ページができました。ありがとう。

一つになった幸中祭 3年

全校生徒全員が一つの会場で同じ空気感を味わうという機会が少ない中、幸中祭は、それができる貴重な行事でした。3年生にとっては、中学校生活最後であり、クラスの仲間と下級生と先生方と全員で楽しめる文化祭にしたいと思っていました。

全校制作のハンドアートに取り組んでいる時は、全校でつながっていると感じにくかったです。一つ一つの作品ができた時、そして、その作品を見つけた時に、全校とのつながりを感じることができました。全校レクリエーションでは、タブレットを使った新しいレクリエーションで、クイズとビンゴを同時に楽しむことができました。クイズでは、幸中にいるのが3年目でも分からないクイズだったり、校長先生に参加してもらおうクイズだったり、工夫されていてとても楽しかったです。有志発表では、クラスや学年の仲間、先生方など、普段とは違う面をたくさん見ることができ、楽しい思い出ができました。会場全体に響く拍手は、みんなが楽しめた証だと思っています。

今回の幸中祭での企画、準備などで中心となって活動してくれた生徒会の方には頼もしさを感じ、下級生からパワーをもらうことができました。3年生も負けてはいられないと思われました。とても楽しい思い出として残る幸中祭を創り上げてくれたことに感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。



新しい取組の全校制作



吹奏楽部の演奏



工夫を凝らしたコント

合唱コンクールを振り返って

2年

初めは全員声小さく他人に任せている感じで、とても不安でした。しかし、練習を重ねるごとにどんどん成長していきました。成長していったのは、三本柱の自分のパートの音程の意識や練習時間を無駄にしないことを、みんなができたからだと思います。合唱指導では息継ぎや伸ばすところなど細かいところまでご指導いただきました。指導されたことは意識できるように楽譜や歌詞カードに書き込み、工夫して練習しました。

本番はとても緊張しましたが、全員でまとまって最後まで歌い切り、1組だけの「HEIWAの鐘」をホールいっぱい鳴らすことができたのではないかと思います。結果発表で、「最優秀賞は…1組！」と言われたときはとてもうれしかったです。最後に朝の集合場所に帰り、みんなで喜び合って、やっと自分たちが最優秀賞を受賞したことを実感しました。



感動の表彰式



合唱講師 杉浦真由美先生



3年ぶり全校合唱

